四三一八番

秋の野に　露負へる萩を　手折らずて　あたら盛りを　過ぐしてむとか

四三一九番

高円の　秋野の上の　朝霧に　妻呼ぶ雄鹿　出で立つらむか

兵部少輔大伴宿禰家持、独り秋野を憶ひて、聊かに拙懐を述べて作る歌六首

天平勝宝七歳乙未の二月に相替りて筑紫に遣はさるる諸国の防人等の歌

四三二〇番

ますらをの　呼び立てしかば　さ雄鹿の　胸別け行かむ　秋野萩原